

指揮
濱津 清仁 Kiyoto Hamatsu



2004年ウィーン楽友協会黄金ホールにて、オーストリア・ウィーン放送交響楽団を指揮し、鮮烈な楽壇デビューを飾った。福島生まれ。幼少よりピアノ・ヴァイオリンを学び東京音楽大学ピアノ科に入学するも、後に指揮科に転科し、1997年同大学を卒業。在学中より、オペラ・声楽付き作品への才能を示し、「ダイドーとエネアス」「クリスマス・オラトリオ」等を指揮する。その後渡欧し、ウィーン国立音楽大学指揮科に入学する。在学中より頭角を現し、主任教授レオポルト・ハーガーの許、管弦楽・オペラなど広範に亘るレパートリーを吸収し、ウィーン国立音楽大学主催公演で、ウィーン・プロ・アルテ管を指揮し（ウェーベルン「管弦楽のための5つの小品」など）好評を得た。学内に留まらず、ルーマニア国立オラデア・フィルの定期演奏会、ハンガリー・セゲド管を指揮するなど活発な活動を展開し、特に自ら主宰したウィーンにおける「SAKURA」室内管弦楽団との活動も特筆される。ヨーロッパでの正統的な指揮教育を受けた濱津が紡ぎ出す音楽は、奇を衒

わない解釈と清冽な響きに満たされ聴衆からの熱い支持を受けている。国内では、札幌交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団などに登場した。愛知県立明和高等学校音楽科などで講師などを勤め、後進の指導にも力を注いでいる。東京音楽大学指揮科を卒業、ウィーン国立音楽大学院指揮科のマスターを取得し修了。これまでに、レオポルト・ハーガー、エルヴィン・アッツェル、湯浅勇治、小澤征爾、秋山和慶、汐澤安彦、広上淳一に師事。



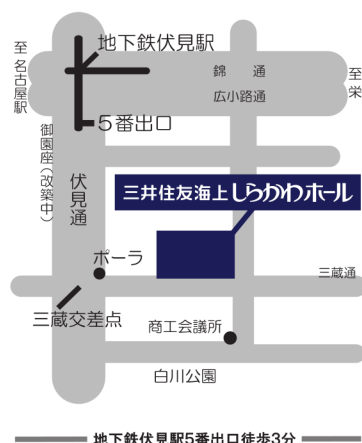
フィルハーモニー・ウィーン・名古屋 (PWN)

当団は2011年3月に、ウィーン式管楽器をこよなく愛する中京地区のアマチュア・オーケストラのメンバーを中心に設立され、ウィーンの響きや音楽性を理想とした演奏活動を行っています。現在、管楽器は団員全員が世界最高峰とされるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と同一の独特な型式のものを使用しており、その美しい響きを追求するオーケストラは、プロ・アマ通じて日本で唯一のものです。団員は10代から70代まで日本全国から幅広く集まっており、2012年12月にブルックナーの交響曲第9番をメインとする第1回演奏会を開催しました。2013年8月にはウィーン楽友協会黄金の間においてベートーヴェン「荘厳ミサ曲」他の演奏を行うなど、積極的な活動を展開しています。



現在、当団のコンセプトに共感し、団員になって下さる仲間(弦楽器、管・打楽器)を募集中です。詳しくは下記当団ホームページ等をご覧ください。 HP <http://pwn.onushi.com/index.html> FACEBOOK <https://www.facebook.com/>

三井住友海上しらかわホール ご案内図



おかげさまで第3回演奏会を迎えますPWNは、後期ロマン派音楽の王者ブラームスに真っ向から対峙します。ブラームスといえば生まれこそドイツのハンブルクですが、キャリアの大半をウィーンで築き上げ、この街きっての大芸術家、名士としてその生涯を終えました。緑の場所のほとんどが、いまなおウィーンに残っています。教鞭を執った音楽院、常連だったレストラン「赤いハリネズミ」、自筆譜や手紙の類をほとんどすべて寄贈した楽友協会、墓、一そして、今回私たちが採り上げる3曲すべての初演を行ったオーケストラ。ブラームスにとっても理想的だったに違いないその響きに、私たちPWNは最も近いところにいるはず。ただ、それは、単に使用している楽器の仕様やメーカーが同じというだけでは成就しません。技術への習熟やウィーン伝統の独特な奏法の研究はもちろん、なによりウィーンの音楽や精神をリスペクトする心が響きを作りだすのだと、私たちは信じています。どうぞ、PWN第3回演奏会にご期待下さい。

●次回演奏会●

2015年5月31日(日)午後開演予定 愛知県芸術劇場コンサートホール
マーラー／交響曲第1番ニ長調ほか